



# ANGEL

天使が舞い降りる日

なんだろう。

ひらひらと、一匹の蝶蝶が目の前を舞い、足元にぼたりと落ちた。拾ってみると蝶蝶と思ったのは、黄金色に色づいた銀杏の葉だった。見上げると、窓の外は色付かせた葉を落とし始めた銀杏の街路樹が立っていた。その向うには、晩秋の空が青く高く澄み渡っている。

どうして!...つい昨日見た時にはにはまだ青い芽が吹き始めたばかりだった。昨日と思ったのは、もう半年以上も前のことなのか? ああ、ああ、思い出した。いや、思い出したのじゃない。知っている。俺には、どうしても金が必要だった。どうしてもだ。なぜ、それをだれも理解しないんだ。馬鹿にしゃがって。Yでさえ最後は返してくれと泣きついた。あてつけがましく、首なんか吊りやがって。俺の言うことはなんでも聞いてくれてたじゃないか。何をいまさら。親父やお袋だって俺のこの地獄の苦しみを何故わからないんだ。家や土地売ったってろくな金にもならなかったじゃないか。これからどうするなんて泣きついたって、俺にだってわかる事じゃないよ。どこにでも消えちまえ。...本当に消えちまった。俺にはたった今、金が必要なんだ。夜になるとあらわれるあいつら。猛獣に食い千切られる俺の肉のかけらでも食うって奴らだ。でも、あいつらが現われなくなったら、本当に俺も終わりさ。もう、食うところもないってことだからな。俺は、この半年の間毎日、いや、一分一秒も金のことを考え続けた。どうやってこの先金を工面するかをだ。あの女だって、なにかっていうと泣き叫びだす。あいつだって結局逃げ出したじゃないか。逃げるがいい。俺を哀れんだような目で見るな。本当の俺をちっともわかっちゃいなかった。俺が金が必要だったんだって、みんなあいつらのためじゃないか。あいつらの...

いや、今はもうだれもいやしない。もういい。なにもかも。

これは、なんだろう。俺の手にあるこの紐はなんだろう。ああ! ああ! ああ! ここに今倒れている女。だれだ! おい! 返事をしろよ。誰なんだいったい。おい! 何とか言えよ。目を覚ましてくれよ。...死んで。死んでるのか! 俺が? そんな馬鹿な! そんなこと...ああ、思い出した。俺は、こいつを...

ああ、だれか! まちがいだって言ってくれ。なにも、なかったって...

— しかした。今日は、こうして俺のところにはちゃんと黄色い葉っぱが落ちてきた。いつもの年と同じように...聞いたことがある。こんな時。この世の終わりの時今のこの空のように突然、天が美しい金色に光り輝いて...ああ、本当に綺麗だ。こんなに美しい空を、俺は今まで見たことがない。木や雲が黄金に染まって、なんて美しく輝いているんだろう。そして、風は優しい。

最後の時、大きな翼を広げた天使が舞い降りる。

そして天使はすべてを解決する。

その時、すべてを理解するんだ。なにもかも一瞬にして。すべてのことを。

借金も、良心の呵責も、無為にした時、この世界がなんだったことも、

ある日ある時突然にゆるされて、みなが笑い、愛し合う・と・き・

どうだ! 空から、ほら本当に天使が降りてきた。

大きな翼を、金色に光・ら・せ・て・

## 中島月通信 旅

昔、おじさんに聞いた話。子供の頃町内に泥棒が入った。見たという人によると、泥棒は唐草模様の風呂敷包みをしょって、手拭の頬かむりをしていたそうだ。子供心にも恐ろしいという気はしなかった。たいした物も盗られなかったけど、櫛をひとつもっていったそうだ。

バアちゃんに聞いた話。子供のころは、とつても田舎に住んでいて、ろくな食べるもんもなかったよ。肉なんてもんはなかったし、甘いもんと言えば干し柿とみかんぐらいなもので、でも、町のほうの大きな神社でお祭りがある時は皆でめかしこんで、馬車に乗って出かけたもんだ。あれは、楽しかったねえ。あの頃は、子供達はいつも頭を牛若丸みたいに結っていたんだ。頭のとつべんに二つ輪っかをこさえてね。

こんなほんの少し昔の不思議な不思議な日本の話。こんな時を過ごして来た、筆筒や時計。ある時、古い筆筒やらなにやらに混じって、埃にまみれた汚い木箱が見つかった。中を見てみると、不気味なお面が十数個、黄ばんだ古新聞につつまれて出てきた。それはそれは恐ろしい形相のお面で狐やら死人のような顔のものばかりで、皆、店に飾るのをいやがったほどだった。その古めかしい文字の古新聞のひとつを広げると、一面に大きく正装した男性の写真が載っていた。清朝最後の皇帝愛新覚羅溥儀が、満州国の皇帝に即位した祝いの写真だった。昭和9年、その日以来、このお面は新聞に包まれて眠っていた。

これは、祭りに使ったお面だったろうか。馬車に乗って旅から旅の祭りの途中、戦火が激しくなって動けなくなったのだから。この箱の中で今まで50年余りの年月をどういう運命で過して来たのだから。そんな不思議な少し前の日本のものたちの、ミルクホールの蚤の市

## INFORMATION

11月12月はミルクホールの骨董・ガラクタ市の企画が満載です。

いつものミルクホールの蚤の市のほか茅ヶ崎の蔵元蚤の市や、海の見える倉庫での青空市、12月には今年最後の骨董ガラクタ市、ラストバザールを開催します。年内いっぱいお楽しみ下さい。

